

府中五中 エントランスの彫刻作品について

作品名 : 「Origin (オリジン)」
作者名 : 小泉 俊己 (こいずみ としみ) 本校第11期卒業生
彫刻家、多摩美術大学 絵画学科教授
第37回 中原悌二郎賞 受賞 (2011年)
素材 : 鉄

- ◆ この作品は、府中第五中学校の創立50周年を記念して、同窓会から学校に寄贈される記念品として、彫刻家の小泉先生に制作が依頼されたもので、約4か月の期間をかけて制作され、平成24年10月28日、8月に新築された校舎エントランスの西側壁面に展示されたものである。
- ◆ 依頼主の同窓会から予算の範囲での謝礼は出ているが、この作品は基本的には小泉先生個人のご厚意による寄贈であり、母校である府中第五中学校と五中生への思いから実現した今回の作品制作である。
- ◆ 小泉先生は、昨年(平成23年)「中原悌二郎賞」を受賞された。この賞は国内の彫刻部門では最高の荣誉とされており、過去の受賞者には船越 保武、佐藤 忠良、若 林 奮、船越 桂などの著名な彫刻家が名前を連ねている。小泉先生は、これからの日本を代表する彫刻家の一人である。
- ◆ 作品のコンセプトは「三つの重なり」を基本としており、三つの輪が連なり、重なりながら、鉄の重量感から解放されて浮き上がり、上昇するような動きが見事に表現されている。鉄に錆付け(さびつけ)された赤味を帯びた色が壁と調和し(校舎の建設段階から、約300キロの重量に耐えられる壁の強度や壁面との調和を何度も確認した上で制作されている)金属とは思えないような柔らかさの中にシャープさを兼ね備えた美しいラインが見事な作品である。
- ◆ 作品名の「Origin」には起源、由来、原点などの意味があり、時間の流れを振り返り原点を再確認して、新たな出発を目指すという、まさに創立50周年の記念作品としてふさわしいタイトルである。その点で、この作品は五中の原点である「自己発見」の一つのイメージ化との解釈も可能であり、新たな五中のシンボルとなるものである。3つの重なりは、「知・徳・体」「教育目標の3項目」「学校・家庭・地域社会」など、常に学校が実現を目指す方向性や関係性を表現したものとも考えられる。
また、見る角度や光の微妙な変化によって、様々に表情を変えるこの作品は、一人一人がその時々の気持ちをもって見ることで、内面的な対話を生み出し、穏やかに語りかけてくるようにも感じられる。見る人を新たな「自己発見」へと誘う作品のように思われる。

この「Origin」は、これからの五中の歴史を見守り続けるシンボルとして、多くの人に親しまれ、愛される作品となることでしょう。

府中第五中学校長 中村 一哉